

一般質問

川下
議員

○松浦高校支援の現状とこれからについて

質 松高支援の目的と今年度の予算額について

政策企画課長 高校がなくなること、地域が疲弊し人口減少が進む要因となります。高校存続に向けて生徒の保護者負担の軽減を図るとともに、松浦高校の魅力向上の取組を支援することで、生徒を確保し、卒業後に松浦へ貢献できる人材として松浦への還流を促進することです。今年度の予算額は1500万円です。

質 今年度の入学者数が昨年一昨年と比べると激減しているが市長としては支援の効果についてどのような認識を持っているか。

市長 松浦高校支援策の導入後、入学者数が増えている状況にあります。卒業生からは、市の支援に対するお礼の手紙を頂いており、郷土愛の醸成や将来的な本市への還流促進に繋がるもので、一定の効果を上げていると考えています。

質 市長には校長先生とともに強い連携で取り組んでもらいたいと思うが、市長の考えは。

市長 松浦高校と佐世保3校の卒業後の進路を調査した結果、あまり変

わらないのではというデータを得たため、中学校長と共有しています。また、松浦高校の生徒に未来会議や総合計画を審議する委員として参加してもらっています。このような取り組みを通じて卒業生が松浦に定着し、又は帰ってきてもらう環境づくりを学校側と十分協議していきます。

質 広島県にある大崎上島町が支援する大崎海星高校は離島でありながら大幅に生徒数を増やしている。その中の1つに公営塾（放課後に生徒の学習をフォローアップするためのもの）の設置がある。本市も取り入れることを検討してはどうか。

政策企画課長 支援事業についてしっかり検証した上で、どのような支援が必要か判断したいと考えます。

○生徒が楽器を通して音楽を学べる環境の整備について

質 市内中学校の楽器が昭和時代のものでかなり古くなってきている。修理しても十分に直らない実情がある。吹奏楽部の生徒はこの状況の中でコンクールに臨んだり、慰問演奏をしたりしている。また保護者に余計な負担が掛かっている。市には計画のもと定期的な修理など適正な保管に努めるように求めたい。

教育総務課長 教材としての音楽備品を適正な状態で管理する義務があると考えており、現状を把握しながら、優先順位を判断して対応いたします。

一般質問

久枝
議員

○松浦炭鉱史の是正について

質 近い将来か、あるいは担当課長の在任中に松浦市の歴史について再発行の予定はあるのか。

地域経済活性化課長 今のところ計画はありません。

質 今回の青い海、誰が書かれたとは言いません。松浦市五代目の市長、故宮原一夫氏と書いてあるが、これは三代目の間違い。昭和33年5月、中島興業江口炭鉱の出水事故が発生し29名が犠牲、この件は合せていますが、犠牲者救出の方を含めて32名とあるが、31名の間違いである。中島興業ではなく、中興工業である。また別の「写真が語るまつうら今昔」では出水事故、昭和33年5月7日死者39名、これは本当に失礼な話で、松浦歴史を正確にしてほしい。

市長 今後そういった書物等を発刊する機会があるときには、十分に内容を検証する必要があると思います。

○県下一周駅伝に対する松浦市の対応について

質 毎年2月中旬の金、土、日と3日間県下11チーム42区間約407kmを1日14区間、平均136km、北松・松浦チームは佐々、小値賀、松

浦の混成チーム。松浦市は当初予算として15万円、北松体協5万、助成金として長崎新聞24万、寄附金として52万、北松・松浦陸上競技会役員の自腹で7万5千円。その中で本来は小学生選手には体調管理のために旅館に泊めるべきであるが、経費削減のために当日に保護者の方々が振り分けて県立競技場へ、学生等東京からの参加者に対しては、飛行機代は出るが、途中の弁当代や旅費は出なく赤字。伴走者3日間、監督始め多くのスタッフ、島原半島などの選手の配置や高速代やガソリン代等のことにどのように対処しているか。

生涯学習課長 県下一周駅伝は、郷土の誇りをもって35名の方が走られる、市民にとっても活力になる大会であると認識しています。経費については、関係者の皆さんから御相談があれば、十分精査させていただきます。対応できる分については検討していきたいと思っています。

質 最終日の反省会に市長と担当課の職員一人が参加で実質2テーブルで足りた。教育長、体育協会長、松浦、北松陸上協会会長、松高関係者等の参加がなかったことに対してどう思うか。

教育長 当日、別の用務のため出席できませんでしたが、今後はそういう機会があれば、選手、監督の皆さんへのお礼も込めて、できるだけ参加するよう努めます。